

## 第9回総合海洋政策本部会合議事概要

◎ 日 時：平成24年5月25日（金） 8時5分から8時20分

◎ 場 所：院内大臣室

◎ 議事の概要：

○ 議事次第に沿って、審議が行われた。

○ 「海洋再生可能エネルギー利用促進に関する今後の取組方針」について、資料1に基づき説明が行われ、審議の結果、本部決定された。

枝野経済産業大臣より、世界一の浮体式洋上風力発電の実現を目指した福島県沖での実証研究の開始について、現在、地域との共生を目指した地元関係者との対話、地域の方の参加と利益の共有を目指した新たな事業モデルの模索を行っており、こうした対話と相互理解の促進には、政府が一体となって、海洋資源の重要性を訴え、地域との共生に取り組んでいくことが大切である旨の発言があった。

○ 「新たな海洋基本計画の策定」について説明及び報告が行われた。

○ 「『排他的経済水域及び大陸棚の保全及び利用の促進のための低潮線の保全及び拠点施設の整備等に関する基本計画』の平成23年度の進ちょく状況及び平成24年度の実施事項」について、報告が行われた。

枝野経済産業大臣より、（EEZの外縁を根拠付ける）離島名称付与の状況について質問があり、藤村官房長官より、離島名称を決定済である旨の発言があった。

○ 「我が国大陸棚延長に関する大陸棚限界委員会の勧告」の内容について、報告が行われた。

玄葉外務大臣より、外務省としても、内閣官房の総合調整の下、大陸棚限界委員会における審査が滞りなく進むよう、尽力してきた中で、今回、大陸棚の延長につき勧告が得られたこと

を評価している一方、勧告が先送りとなった海域については、早期に勧告が得られるよう、引き続き努力していく旨の発言があった。

- 「その他」の議題では、総合海洋政策本部幹事会構成員の変更について本部決定された。

また、前田海洋政策担当大臣より、東日本大震災の津波により我が国から流出した漂流物が、今後、北米大陸沿岸域に到達することが予想されていることについて、プロジェクトチームの設置等により、政府内の体制を強化して、しっかりと対応していく旨の発言があった。

さらに、細野環境大臣より、環境省では漂流シミュレーションを実施し、データを米国と共有しているが、さらなる取組を検討する旨の発言があった。

- 総合海洋政策本部長である野田閣総理大臣から挨拶が行われた。